



The Kyoto University Library Bulletin

静修

1964年 9月

Vol. 1, No. 1

## 創刊のことば

図書館は図書館利用者のために在る。大学図書館は主として研究者と学生のためにある。京大図書館は、部局図書室を含めて、220万に余る蔵書数を誇り、多数の貴重な文献・資料や特殊文庫の所蔵でその名を謳われている。けれども反面に、この蔵書のための図書館に墮する傾向がなかつたか。蔵書のための図書館から利用者のための図書館へ、ここに大学図書館近代化の基本的な問題がある。

この問題の解決には利用者側の理解と協力が絶対必要である。例を指定書にとつて見ても、これは教官の学生に対する学習指導上の事柄であつて、図書館はそれに協力する立場にある。一般に文献・資料を蒐集整理し、情報活動を活潑にして、積極的に利用者に奉仕する態勢を整えることは図書館の仕事であるが、この仕事は、個々の教官、各教室、各部局の理解と協力を得て、はじめて完全なものになる。

京大図書館報「静修」の刊行を企てたのは、単なるPRのためではない。図書館と利用者とのコミュニケーションの道をひろげ、もって大学図書館近代化問題の解決に資しようとするにある。希わくは利用者各位の御協力と御支援を賜わらんことを。

(付属図書館長 堀江保蔵)

## 私 事

吉川幸次郎

私も学問をするものであり、学者のはしくれであるからには、多少の書物を、個人の蔵書としてもっている。30何年前、ベキンに留学生としていた昭和のはじめは、浜口内閣の時代であり、その政策のせいであるのかどうか、また当時の国際経済情勢がどういう風の原因として働いたか、すべて知らないが、私ども留学生にとってあり難いことは、月額日本金200円の留学費が、当時銀だけであつたむこうの金に直すと、2倍以上の5百何十円かになることであつた。今の金ならば、20万円ぐらいであろうか。少くとも、3年の留学